

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第三小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 市学力調査の結果から、自分の思考や意見を書いたり話したりして表現することに課題が見られる児童が約5割程度いる。 友達の考えを聞いて、自分の考えを深めようという経験が少なく、自分の考えを発表することに課題が見られる児童が、同調査の結果から約4割いることが分かった。 	<p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人一台端末やホワイトボード等の考えを交流する学習媒体を幅広く取り入れ、共通点や相違点に着目しながら交流したり発表したりする活動を積み重ねることで、自分の考えを発表することへの意欲を高める。 <p>まとめ・振り返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業ではふり返りを書く活動を重視し、1単位時間で5分程度の時間を確保する。 <p>個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導やコメントで励ましやアドバイスを積み重ね、書くことに自信をもたせて、7割以上が自信をもって表現できるようにする。 <p>上記の改善策により、6割以上の児童が自分の考えや意見を意欲的に発表できるようにする。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 市学力調査において、2桁をかける乗法の計算の正答率が50%を下回り、基本的な四則計算の定着に課題がある。 同調査において、作図の問題に対する正答率が60%を下回り、三角定規やコンパス、分度器などを使用し、正確に作図することに課題がある。 	<p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解及び習得の時間を、領域に合わせて計画的に繰り返し行う時間を授業内で設ける。 <p>個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定や作図の場面では、机間指導を多くして個別の支援を充実させるとともに、児童同士での教え合いを通じて技能を向上させる。 <p>学習集団編制</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに既習事項を把握するレディネステストを実施し、課題に応じた学習集団編制（習熟度別少人数指導）をする。 学習集団ごとに、問題設定や学習展開及び手立ての工夫をし、それぞれの課題に合った指導を展開する。 <p>上記の改善策により、学期末実施の東京ベーシックドリルBでは、正答率8割以上を目指す。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の予想の際に、生活経験や学習経験から根拠を書くことに課題が見られる児童は4割程度である。 考察を実験結果をもとに書くことに課題が見られる児童は4割程度である。 	<p>個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の内容を思い出すよう言葉掛けをしたり、よく考えている児童を手本として例示したりする。生活経験から書けるように支援していく。 6割以上が考えを深めることができるようにする。 <p>まとめ・振り返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察は、問題を確認してから書き始めるようにすることで、何について書けばよいかを明確にする。7割以上が書けるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の体力テストの調査結果より、各種目に関わる力や技能について、全国平均と比較して大きな差異は認められない。しかし「反復横跳び」「立ち幅跳び」の2種目については、男女ともに全国平均を下回った。 体力テストの意識調査から「1日の睡眠時間」と「就寝時刻」のクロス集計の結果を見ると、「就寝時刻がまちまちである」×「1日の睡眠が6時間未満」の割合が他学年より多く12.5%になっている。 	<p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 円おにやスラロームリレーなどグループで瞬発力やすばやさを高める運動を意図的に行う。 ミニハードルを活用して力強く跳ぶ運動を取り入れる。 次年度の体力テストで全国平均との標準偏差5ポイント以内を達成できるようにする。 保健の学習を中心に、睡眠が健康に及ぼす影響について考え、話し合う活動を取り入れる。ICTを活用して事前アンケートや事後アンケートなどを実施することで、一人一人が自分事として捉えられるようにする。「睡眠時間が6時間未満かつ就寝時刻がまちまち」の児童の割合が10%以下になるようにする。